## り国人受け入れ 「東京ラウンド」

平成28年11月12日 主催:一般財団法人 未来を創る財団

## \*\*\* 東京ラウンド写真集 \*\*\*



外国人受け入れラウンドテーブル「東京ラウンド」

日 時:2016年11月12日(土)13:00~17:00

場 所: JA 共済ビル「カンファレンスホール」(東京都千代田区平河町 2-7-9)

テーマ:「今後の外国人受け入れはどのようにあるべきか」

主 催:一般財団法人 未来を創る財団

山本幸三 内閣府特命担当大臣(地方創生、規制改革)の挨拶で始まった。





基調講演される古谷一之内閣官房副 長官補。

古谷次官補は、外国人に関するわが 国の現状と課題、今後の展望などに ついて、豊富な資料をもとに、30分 にわたり、丁寧に説明。

政府としても、この問題に対して、前 向きに取り組む姿勢が感じられる。

本基調講演をベースにその後の議論が展開された。

改革派の先頭をいく門脇仙北市長(左)と髙橋大潟村長両首長。 多忙なお二人は、この日秋田からトンボ帰り。





この日は、内閣府藤原審議官、法務省入国管理局総務課根岸企画課長、厚生労働省宮川総括審議官の3人霞が関から出席され、それぞれの立場から意見を発表。



サービス業を代表して、西村総一郎城崎西村や社長(左)と時忠之大幸企画代表取締役(長崎県大村市)二人の若手論客が意見発表。





宿泊施設はあっても、受け入れる人手がないため、予約を受けられない旅館街の現況を説明する西村氏。大村市周辺では飲食店舗の従業員の求人応募がないため、人手の危機を訴える時氏は、採用する外国人からの刺激に対する期待も表明。



全国7地域、計6か所で開催した地域意見交換会で、延132名の方がたに出席いただいて交換したさまざまな意見を取りまとめ発表する戸田佑也氏(左、定住外国人政策研究会メンバー、(株)あらまほし代表取締役)。門脇市長と談話(事務局長麻植、右)。



全国でも指折りの定住外国人居住地域である浜松の現状と課題について、教育現場からの 意見を浜松市立和田東小学校太田正之教諭(左)が、生活者としての定住外国人について は浜松市の石塚国際課長が、それぞれ発表。







20年の歴史をもつのしろ日本語学習会の北川裕子代表。能代は近隣地域のハブになっている。介護人材については、現場での受け入れ体制への支援がないと、いくら国で法改正してシステムをつくっても難しい。ゼミでは15人中5人が移民であり、移民がいないという国の前提と大きな乖離がある。と語る国際教養大学秋葉丈志准教授。

創業81年のナガサキ工業社長長崎洋二氏(左)。金属加工業をベースとした事業を展開し、中国、シンガポールにも拠点を構えている。210名の従業員の10%が外国人。来年の新卒採用見込みはほぼゼロ。前半の総括は三菱UFJリサーチ&コンサルティングの南田あゆみ氏。







外国人の受け入 れはこれから、 という豊岡市長(左) と大村市大大室長。と大村市 長公室刻な人手 に深刻なる。



政府の中で外国人の課題を検討できる可能性のある会議体は 4 つある。国家戦略特区、投資都市会議(産業競争力会議を改組)、働き方会議、規制改革会議。こうした会議体は重要で、役所の立場としてはいいにくいことを提案していく場になりうる、と語る規制改革会議民間議員の原英史(株)政策工房社長(左)。



定住外国人問題を研究者の立場から総括する鈴木江理子国士館大学教授、都内の事業者の立場から意見を述べる小田垣ノヴィータ会長(中右)と本日の議論を総括する日本国際交流センターの毛受執行理事(定住外国人政策研究会メンバー、未来を創る財団理事)。

コーディネーター磯山友幸氏(右)、アシスタント鈴木さんの労をねぎらう未来を創る財団 國松会長(左)と同石坂代表理事。

この先、定住外国人政策研究会による政府への提言とりまとめの難作業が待ち受けている。

